

点々が風景に

2013.5.28

谷川拓男

この度、ブロック参加させていただきます奈良の谷川です。全国縦断をめざす12人の皆様を応援しつつ、足手まといにならないようについて行ければなあ、と思っています。

昨年の夏、私は東北での試走会に参加いたしました。そこで初めて『走り旅』なるものを体験した訳ですが、『走って旅をする』というとおりの、ただ『走る』こと以外にも、『旅をする』部分で、多くの発見がありました。

まず地図を読み解きながら走る必要があること。分かれ道を見落とさない、違う方角へは行かない、川や鉄道はもとより、郵便局や工場などの地図記号を参考にする、など基本的なことがなかなかうまくできませんでした。

次に、仲間と走ることの重要性。暑い時、きつい時にも、励ましの言葉を直接してもらわなくてもいいのに、気持ちが同調し孤独感が癒されるように感じられました。どの道に行くか、判断に迷ってしまうときでも、協議したり手分けしたりして進むことができました。(不思議なことに、一人ぼっちになった瞬間に、ややこしいポイントが出現し、あらぬ方向へたびたび行ってしまうので、途中の100円均一店で購入した方位磁石が必需品となりました。)交通量の多い単調な幹線道路をひたすら進まなければならないとき、あるいは移動の電車待ちでちょっとビールを飲みながら、以前参加した大会や、走るための装備についての情報交換をしたことも、楽しい思い出です。

さらには夜のミーティング。皆の瓦版を見ながら、その日の出来事を共有し、そして翌日のコース確認を行う。さながら学生時代のクラブ活動に戻ったような感覚でした。

このような多くの発見が、走り旅の魅力となって体感できました。今回北日本のGP編集人に指名され、その作業をしていく上で東北の地図を見ていると、ルートに記された点々が、さまざまな風景となって懐かしく浮かび上がってきます。間違ったり悩んだりしたところでは、特に鮮明です。

ルート地図を作成される時、この点々を記入していくことは大変であったろうと思料いたします。100メートル間隔なので、3,146キロでしたら31460個の点々です。これは86年の寿命の人が生きる日数にほぼ相当します。そう思うと、一つ一つの点々が、かけがえのないものを感じてきます。今回の挑戦を終えてのち、ほかの多くのエリアの点々が、また風景に変わるよう、一日一日を過ごしていきたいです。

【(ご要望にお応えして) 妻からの一言】

13年前、夫が走り始めて2か月でハーフマラソンに出場した時は、肩を貸さないと歩けないほどのダメージだったのが、今では一人で全国を走り回っています。今回は2か月の長丁場ですが、ケガなく帰ってきてくれればうれしいです。老後に同じところを一緒にたどることを夢見ています。皆様よろしくお願ひします。